

## 南アフリカ

<要約>

	概要	特徴
1. 市場環境の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>○社会構造 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総人口：5,967 万人（2020 年 IMF 推計）</li> </ul> </li> <li>○経済環境 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一人当たり GDP：4,736 ドル（2020 年 IMF 推計）</li> <li>・ 実質 GDP 成長率：-8.0%（2020 年 IMF 推計）</li> <li>・ 1 ドル=15.09 ランド/1 ランド=6.942 円(2021/1/29)</li> </ul> </li> </ul>	
2. 金融制度の概要	<p>&lt;金融制度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○銀行業態（機関数、総資産シェア、根拠法） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 商業銀行 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 国内銀行（13、92.7%、Banks Act）</li> <li>- 外銀現法・外銀支店（22、6.6%、Banks Act）</li> <li>- 相互銀行（3、0.1%、Mutual Banks Act、Mutual Banks Amendment Act）</li> <li>- ポストバンク（1、South African Postbank limited Act）</li> <li>- 協同組合（25、0.01%、Co-operative Banks Act）</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>○預金保険制度：未導入。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多くの外国銀行も事業を展開。南アフリカは、アフリカ大陸における一大金融センターの地位を占めている。</li> <li>○全国の郵便局を通じてサービスを提供するポストバンクが、これまで銀行口座を保有していなかった階層にも金融サービスを提供している。預金残高は、52億ランドで、シェアは0.13%。</li> </ul>
3. ポストバンクの現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○郵便貯金制度・経営形態 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2010 年に南アフリカポストバンク会社法が發布され、ポストバンクは南アフリカ郵政事業会社の一部門から、独立した法人になることが規定された。</li> <li>・ 2017 年 7 月にポストバンクは SARB の最終審査のための申請書を提出しており、その後 2 年以上が経過したものの、いまだに銀行ライセンスの取得には至っていない。</li> </ul> </li> <li>○金融サービス提供の形態 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2010 年南アフリカポストバンク会社法で、銀行サービスのユニバーサルかつ容易なアクセスを促進することを規定。</li> </ul> </li> <li>○預金業務と送金・決済業務 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 預金には大別して定期貯金と貯蓄貯金の 2 つがある。</li> <li>・ 4 種のデビットカードを提供。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全国1,512の郵便局と696の簡易局において金融サービスを提供。</li> <li>○社会保険庁との戦略的パートナーシップのもと、2018年6月に、国内決済システムを利用して社会補助金の受益者への支払いが開始された。2019年3月までに、770万人以上に対して約830万ランドが支払われている。</li> </ul>

<p>4. 金融セクターにおけるリテール金融機関の特徴</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○南アフリカでは、2012年8月に策定された長期戦略の「国家開発計画2030」において、金融包摂の目標を、2030年までに成人の金融機関口座の所有比率を90%にすると設定した。2018年に銀行またはノンバンクの口座を保有する成人は90%に達しており、2030年を待たずに金融包摂の目標は達成された。</li> <li>○一時、600万口座に達した低所得者向けMzansi口座だが、併売禁止規定や費用対効果の面から、大手銀行はMzansi口座の募集を停止。採算性が見込める顧客を中心に自社銀行口座への移行を進めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○社会補助金を金融機関の口座に支給するようにしたことが、金融機関の口座保有を拡大させた</li> <li>○当初4大銀行は、ポストバンクとともに低所得者向けMzansi口座の普及を推進したが、今では募集を停止。既存口座の半数近くを自行のエントリーレベルの口座商品に移行。</li> </ul>
<p>5. 最近の金融動向と今後の展望</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○景気減速による失業率の上昇などもあり、マイクロファイナンスの残高は漸減傾向。返済に窮する低所得者の負担を軽減するため、政府主導で債務の減免や金利引き下げを行う法案が成立。</li> <li>○南アフリカでは携帯電話が広く普及。2017年末の携帯電話契約数は8,940万件と人口を大きく上回る。携帯電話の普及に伴い、モバイルバンキングの利用も拡大。</li> <li>○南アフリカのEC市場は、2017年時点で23億ドル。国民の3割にあたる1,700万人が利用する一方、一人あたりの年間利用額は136ドルにとどまる。決済システムへの信頼確保が普及のカギ。</li> <li>○南アフリカでもフィンテックの存在感が増している。南アフリカ準備銀行はフィンテック室を新設、フィンテックが伝統的な銀行業務に与える影響などについて研究を開始。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○マイクロファイナンスは、2013年をピークに伸び悩み。</li> <li>○決済手段としての現金の利用は依然として活発である。南アフリカでは、振り込まれた給付金等は、いったん全額引き出し、その後は現金で使われることが多い。消費者取引の50%が現金取引とも言われている。</li> <li>○南アフリカのフィンテック企業は、決済、貸出、貯蓄・預金、保険、投資、アドバイザー、資本調達、およびB2Bの8分野で、216社が操業している。</li> </ul>